

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

小山町殖産興業遺産(国登録有形文化財)活用プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

静岡県駿東郡小山町

3 地域再生計画の区域

静岡県駿東郡小山町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の経済的発展は、明治 29 年に富士紡績（株）が創業されたことから始まった。富士紡績（株）の進出以前、明治 24 年の本町小山地区の人口は 2,578 人であったが、それが明治 43 年には 15,314 人、大正 14 年には 19,000 人を越えたことからわかるように、富士紡績（株）は現在の小山町の発展に大きく寄与した。その後、紡績業の衰退に伴い、小山地区の人口も平成 28 年 4 月現在 6,872 人（町全体の人口は昭和 35 年の 28,900 人をピークに現在 19,197 人）まで減少した。

こうした背景の中で、富士紡績（株）の功績を後世に残すため、明治から大正にかけて同社に大きな功績のあった和田豊治氏の私邸「豊門会館」、豊門青年学校の「西洋館」、さらには工場へのアクセス路、輸送路として使われた森村橋が、同社から本町に譲渡され、現在は国の登録有形文化財となっている。

しかしながら、これらの施設はいずれも老朽化が著しく、公開もままならない状態であり、特に森村橋は長い間立入禁止となっているなど、訪問客の受入れが困難な状況となっている。これに加え、町民の富士紡績（株）への意識も低下している。

このため、豊門会館、西洋館及びそれらがある豊門公園、さらには森村橋にいたる一連の施設を改修し、その保全と利活用を図ることで、交流人口の拡大や雇用機会を創出するとともに、シビックプライドの醸成を図る。

【数値目標】

事業	殖産興業遺産(国登録有形文化財)活用事業			年月
	森村橋、豊門公園、豊門会館、西洋館への入込客数	雇用人数		
		森村橋、豊門公園	豊門会館、西洋館	
申請時	1,000 人	0 人	0 人	H29.3
初年度	2,000 人	0 人	0 人	H30.3
2 年目	2,000 人	1 人	0 人	H31.3

3年目	12,000人	2人	0人	H32.3
4年目	22,000人	2人	5人	H33.3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2(3)に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 事業名：小山町殖産興業遺産(国登録有形文化財)活用プロジェクト

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本町の経済的発展は、明治29年に富士紡績(株)が創業されたことから始まった。富士紡績(株)の進出以前、明治24年の本町小山地区の人口は2,578人であったが、それが明治43年には15,314人、大正14年には19,000人を超えたことからわかるように、富士紡績(株)は現在の小山町の発展に大きく寄与した。その後、紡績業の衰退に伴い、小山地区の人口も平成28年4月現在6,872人(町全体の人口は昭和35年の28,900人をピークに現在19,197人)まで減少した。

こうした背景の中で、富士紡績(株)の功績を後世に残すため、明治から大正にかけて同社に大きな功績のあった和田豊治氏の私邸「豊門会館」、豊門青年学校の「西洋館」、さらには工場へのアクセス路、輸送路として使われた森村橋が、同社から本町に譲渡され、現在は国の登録有形文化財となっている。

しかしながら、これらの施設はいずれも老朽化が著しく、公開もままならない状態であり、特に森村橋は長い間立入禁止となっているなど、訪問客の受入れが困難な状況となっている。これに加え、町民の富士紡績(株)への意識も低下している。

このため、豊門会館、西洋館及びそれらがある豊門公園、さらには森村橋にいたる一連の施設を改修し、その利活用を図ることで、交流人口の拡大や雇用機会を創出するとともに、シビックプライドの醸成を図る。

(事業の内容)

以下のア～ウの事業により、「殖産興業」の遺産を舞台に、食、遊、学を楽しみ、巡る観光サービスを提供することとする。また、これを事業化する組織を立上げ、雇用を創出し来訪客の増加に伴う周辺商店街の活性化につなげていく。さらに、町の文化的イメージの向上による移住定住の一助とする。

ア 森村橋の復元修景事業

現在は、老朽化により利活用されていない森村橋を国登録有形文化財として後世に良好な状態で保存し、併せて観光資源としても活用するため、1906年の竣工当時の姿に復元する。

復元後は、昼間だけではなく夜間の観光客の周遊スポットにもなるよう、ライトアップ等を行う。

橋のもとに小規模スペース（ポケットパーク）を整備し、橋の歴史、技術的価値、森村翁の顕彰、竣工当時の写真他を含めた説明陶板を設置し、橋を眺めながら歴史を学ぶことができる空間として整備する。

（参考）森村橋の概要

鋼製単トラス橋、橋の長さ 39m、幅員 4.8m 明治 39 年（1906 年）完成
邦人が設計・作成した鋼製トラス橋としては我が国初期の遺構で、中部地方では最も古いものと言われている。また、平成 6 年の土木学会編集の「鉄の橋百選」に選ばれた。

イ 豊門公園の修景事業

- ① 現在は町民の憩いの場として利用されている豊門公園を、歴史を振り返るうえで重要な地であることを今一度明らかにし、併せて観光資源としても活用するため修景を行う。
- ② 豊門会館及び西洋館と庭を一体的に活用すること前提とし、観光客が周遊しやすいよう園路等を整備する。

園路や園地、植栽、噴水改修、サイン、外灯、銅像復元等の工事を実施し、富士紡績（株）に大きな功績のあった和田豊治をはじめ、殖産興業により日本の近代化をリードした財界人らを顕彰する場として整備する。

（参考）豊門公園の概要

富士紡績株が、優れた景勝の地を特に選び、地域住民及び従業員の教育、保健、修養などの場を提供することを目的に、大正 15 年（1924）に、当時の町や町民の協力のもと会館・宿舎及び庭園を整備したものである。面積約 20,000 m²。

ウ 豊門会館及び西洋館大規模修繕事業

現在は年に数回、一般開放している豊門会館及び西洋館を、国登録有形文化財として後世に良好な状態で保存し、併せて観光資源としても活用できるよう大規模修繕を行う。

豊門会館は耐震補強及び老朽化した部位の修繕を実施し、会館内に貸室を前提とした設備を整備する。

西洋館は耐震補強及び老朽化した部位の修繕を実施し、館内にレストラン、カフェを整備するとともに、富士紡績（株）の歴史資料の展示ギャラリーを設ける。

(参考) 豊門会館・西洋館の概要

・豊門会館

大正 13 年 3 月に死去した故和田社長の遺志により、同家の向島にあった明治 42, 3 年頃建築の邸宅延べ 126 坪が、遺族により寄贈された。その後直ちに小山町藤曲における庭園(今の豊門公園)の築造と邸宅の移転工事に着手し、大正 14 年 12 月に落成した。大正 15 年 5 月 16 日には盛大な開館式が行われた。和館と洋館からなる木造 2 階建て延床 527.07 m²。

・西洋館

富士紡績(株)が私設した豊門青年学校の建物。豊門会館完工後に着手し、昭和 5 年前に完成。スレート葺き寄棟、外壁は下見板張り、正面に搭屋を配す瀟洒なデザイン。木造 2 階建て(搭屋付)延床 395.76 m²。

→各年度の事業の内容

ア 森村橋の復元修景事業

初年度) 復元修繕工事を開始する。橋を工場で修復するために取り外し、この光景をメディアを通じて情報発信する。橋の調査結果及び復元修景計画をホームページに掲載する。

2 年目) 橋を据え付け、周辺整備を行い竣工させる。一連の修復工程を記録し、修復工程やリニューアルした橋の情報発信を行う。

3 年目) 森村市左衛門没後 100 年に当る 2019 年に森村橋の開通式を実施する。これを契機に来訪者を迎える。情報発信により来客を促す。

イ 豊門公園の修景事業

初年度) 修景事業の実施設計を行い、工事を開始し竣工させる。修景デザインの内容をホームページに掲載する。

2 年目) 四季の花や緑が楽しめるよう、良好な維持管理をするとともに、情報発信により来客を促す。

3 年目) 四季の花や緑が楽しめるよう、良好な維持管理をするとともに、情報発信により来客を促す。

ウ 豊門会館及び西洋館大規模修繕事業

初年度) 大規模修繕事業の設計を行う。

2 年目) 大規模修繕工事を開始する。建物の詳細な説明及び修繕の内容をホームページに掲載する。

3 年目) 引き続き工事をを行い竣工させる。指定管理による管理運営を開始し、施設の営業開始に備える。一連の修復工程を記録し、修復工程の情報発信を行う。

(4) 地方版総合戦略における位置づけ

本町のまち・ひと・しごと創生総合戦略では、「産業拠点の整備を中心に多様な雇用機会を創出する」という基本目標の中で、「観光産業の強化」の具体的施策の一つとして「国の登録有形文化財である豊門会館や西洋館、森村橋を修復し、見せること、体感すること、さらにロケ地としての利用を可能にすることで、国内外からの誘客を図る。」ことを位置づけている。本事業は他に類を見ない殖産興業の歴史的遺産を活用したものであり、国内外から注目され、総合戦略に掲げる数値目標「観光交流客数」（現状 415 万人→H31 500 万人）の達成に直接寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標(重要業績評価指標(KPI))

事業	殖産興業遺産(国登録文化財)活用事業		年月
	K P I 森村橋、豊門公園、豊門会館、西洋館への入込客数	雇用人数 森村橋、豊門公園	
申請時	1,000 人	0 人	H29.3
初年度	2,000 人	0 人	H30.3
2 年目	2,000 人	1 人	H31.3
3 年目	12,000 人	2 人	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

森村橋の復元修 景・活用事業	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計		50,000	153,000	2,000
区分	委託料	0	0	1,200	1,200
	工事請負費	50,000	150,000	0	200,000
	需用費	0	3,000	500	3,500
	役務費	0	0	300	300

豊門公園の修 景・活用事業	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計		160,490	2,750	2,750
区分	委託料	10,000	2,000	2,000	14,000
	工事請負費	150,000	0	0	150,000
	需用費	240	500	500	1,240
	役務費	250	250	250	750

豊門会館及び西 洋館大規模修 繕・活用事業	年 度	H29	H30	H31	計
	事業費計	40,950	200,210	370,210	611,370
区分	委託料	40,740	0	0	40,740
	工事請負費	0	200,000	370,000	570,000
	需用費	130	130	130	390
	役務費	80	80	80	240

※大規模修繕終了後には指定管理による管理運営とする予定

(7) 申請時点での寄附の見込み

(単位：千円)

小山町殖産興業遺産（国登録有形文化財）活用プロジェクト					
	年 度	H29	H30	H31	計
	事業費計	251,440	355,960	374,960	982,360
	寄附額計	51,000	0	0	51,000
寄附法人	㈱リンガーハット	50,000	0	0	50,000
	食品製造販売事業者	1,000	0	0	1,000

(8) 事業の評価の方法（PDCA サイクル）

(評価の手法)

毎年度、事業の実施状況及びK P I の達成状況等を取りまとめ、小山町まち・ひと・しごと創生会議及び町議会に報告し事業効果を検証する。また、必要に応じ、小山町まち・ひと・しごと創生総合戦略や今後の事業計画に反映させる。

(評価の時期・内容)

小山町は、各目標の数値及び事業の実施状況について、事業実施年度の次年度の4月にNPO法人からの報告により把握する。

また、数値目標の達成状況及び事業効果の分析を行い、毎年6月に開催する「小山町まち・ひと・しごと創生会議」で評価を行う。

(公表の方法)

目標の達成状況及び事業の実施状況については、評価実施後、毎年度速やかに小山町ホームページで公表する。

(9) 事業期間 平成29年7月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

目標毎の数値及び事業の実施状況を取りまとめ、数値目標の達成状況の確認及び事業効果の分析を行い、産官学金労言により構成する「小山町まち・ひと・しごと創生会議」で報告し評価を行う。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

各目標の数値及び事業の実施状況について、毎年6月に開催する「小山町まち・ひと・しごと創生会議」において評価する。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の方法

目標の達成状況及び事業の実施状況については、評価実施後、速やかに小山町ホームページで公表する。